

1913~2013  
100th  
Anniversary  
Showa Lumber Co.,Ltd.

昭和木材株式会社  
1913年(大正2年)~2013年(平成25年)

創業100周年記念誌



愛別町安足間での造材(昭和10年代)

## 創業100年を迎えて

蝦夷の地が北海道となって144年、旭川が開村されて123年の中で昭和木材は100年の歴史を刻むことができました。これはひとえにお客さま、取引先さまのご支援の賜物であり心より御礼申し上げます。

また創業以来、会社のために一生懸命働いた社員のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

さて、私は100年、一世紀という記念すべき時には会社史を創らねばと思いました。しかし、ハードカバーの重厚な本づくりを想像すると筆が一向に進みません。

そこで私の趣味でもある写真を使った写真集で会社の歴史をまとめようと思い立ちました。この方が皆様も簡単にご覧になれるだろうと、自分勝手な思いで作成いたしました。安易だとお叱りを受けるかもしれませんのがお許しくださいませ。

付け加えると、古い写真に見入ってしまい一向に作業が進みませんでした。

高橋家は明治39(1906)年、岩手県から東旭川に入植いたしました。

農業を営み、冬は造材を手がけるうち、大正2年(1913年)に高橋喜七は高橋造材部を立ち上げ、森林事務所から払い下げられた立木を造材し、良材のナラやセンはソマ角にして小樽に出荷しておりました。ここから昭和木材創業の100年の歴史が始まったのです。

2代目高橋丑太郎は名実共に木材業界のリーダーでした。北海道銘木市を創設し、丸太の上で競(せり)をする姿があります。全国広葉樹大会を主催するなど、会社は「広葉樹の昭和」と呼ばれるまでになりました。

3代目高橋二郎は木材加工に注力、英國バイヤーと並ぶ姿が見えます。緻密な計画と手堅い経営で会社を発展させました。

4代目の私(高橋秀樹)は海外からの原料調達と生産設備の拡大と全国販売拠点つくりに精力を注いできました。

(代)専務高橋範行は海外木材商品の仕入販売を、常務高橋泰規は札幌のプレカット事業をそれぞれ受け持ち、また第4世代として鵜飼欣彦、高橋謙太郎がおり、一族上げて「先代に恥じることのない経営」を目指し頑張っている所でございます。

厳寒風雪の創業期、戦前戦後の苦難、激しい好不況の波がありました。

現在もバブル崩壊、リーマンショック、欧州金融危機など大変動が続き、何が起こっても不思議ではない世界でございます。

この100周年を機に社員一同初心に戻り「日々新たなり、技術革新をめざせ」を社訓に、真摯かつ常に自制的態度で、仕事に邁進して参ります。

皆様には、これまでと変わらぬご支援ご鞭撻を賜ります様、何卒宜しくお願い致します。



第四代 代表取締役社長  
高橋秀樹

○ 明治39年(1906年)4月6日

高橋丑松が妻ハツと一人娘サトを伴い、岩手県和賀郡藤根村(現在の北上市)から移住し、北海道上川郡東旭川村字ペーパンに入植



入植者によって開墾された  
ペーパン原野(明治末)  
北海道大学附属図書館  
北方資料室蔵

○ 明治35年(1902年)

・旭川に第七師団完成  
明治37年から始まった師団建設には、大雪山系の豊富な資材も活用された



石狩川～第七師団建築資材  
川流しの景(明治32年頃)  
北海道庁蔵



第七師団司令部(明治30年代)  
旭川市中央図書館蔵

○ 第七師団と旭川

師団建設は東京の大倉組が請け負ったが、木材・建設等関連事業が振興し人口が増加。旭川の発展に大きく寄与した

## 始まりは、ペーパンの原生林から

昭和木材(株)の創業一族である高橋家が北海道に一歩を印したのは、明治39年(1906年)春のことだった。

岩手県和賀郡藤根村(現在の北上市)で代々農業を営んでいた高橋丑松が移住団を組織し、北海道上川郡東旭川村字ペーパンの地に入植。同行の家族は妻ハツと一人娘サトであった。

現在は旭川市米原・瑞穂地区と名称が変わっているこの地区は、旭山動物園のある旭川市旭山の奥にあり、かつてはアイヌ語で甘い水を意味する「ペーパン」と呼ばれていた。

この地は大雪山の麓に位置し、ナラを中心にタモ、セン、カバ、カツラなどの豊かな優良広葉樹林が広がり、昭和木材(株)の事業の原点である。



ペーパン地区を含む東旭川村の水田。巨木の抜根は手におえず、そのままにして耕作されていたことがうかがえる。(明治35年頃) 旭川市中央図書館蔵



豊かな森林を擁する大雪山系の麓・愛山渓

○ 大正2年(1913年)

丑松の娘サトと結婚した高橋喜七が高橋造材部を立ち上げる。これが、昭和木材(株)の創業となる

## 高橋造材部の設立

父・丑松と共にペーパンに移住した一人娘サトは、明治45年、海軍帰りのハイカラな喜七と結婚した。喜七は農業のかたわら、土木工事や山林造材を請け負っていたが、それを組織化して大正2年、高橋造材部を立ち上げた。これが昭和木材(株)の創業となる。

○ 大正4年(1915年)

高橋造材部がスタートした大正2年当時、旭川では多くの製材・木工場が設立。同4年には木工品伝習所も開設



旭川市木工品伝習所の開設  
旭川市立図書館蔵

当時の旭川は、明治31年に鉄道が開通し、翌32年に第七師団が設置されるや、急速に発展。それまで小樽や函館勢を中心の北海道経済だったが、旭川を拠点とした物流が始まる。折しも大正2年、旭川の経済人は誇らかに旭川商圈の拡大を宣言した。



創業者・高橋喜七と妻サト(昭和初期)



後に二代社長となる3歳の丑太郎(左)と妹トキ、母サト(大正8年頃)

○ 大正8年(1919年)

目覚ましい発展を遂げる旭川経済の結節として、旭川商業会議所(現旭川商工会議所)が設立される



旭川商業会議所(大正8年)  
旭川市立図書館蔵



東旭川青年団第十五支部演芸記念

中央が喜七、その前の少女は五女テル子(昭和初期)

## 大正時代の旭川

明治31年の鉄道開通を機に、旭川は著しく発展。旭川商圈が確率し、産業・経済上、独自の基盤が出来上がった

## ○ 昭和4年(1929年)

旭川森林事務所(現在の道有林)よりカバ立木を買い受け、紡績木管を生産

## ○ 昭和7年(1932年)

高橋木材店として、高橋丑太郎が現場を受け持つ

## ○ 昭和9年(1934年)

函館大火により、原木製材の緊急出荷令が出る



函館大火の跡(昭和9年)  
北海道大学蔵

○ 昭和11年(1936年)～  
13年(1938)

東旭川、東川、安足間、江丹別と事業を拡大し、農業をやめて木材業に専念する。この頃、木材業は軍需景気にあった

## 木材業の礎は道有林

森林事務所から払い下げになった立木を造材すると共に、周辺の農家から買い集めた木材を製材工場に販売し、質の良い木があればソマ角にして小樽などへ出荷。昭和7年には高橋木材店として高橋丑太郎が若い親方として現場を受け持ち、原木事業を拡大。安足間や東川など道有林の山こそ、昭和木材が木材業を営む礎の山といえる。



旭川市街展望(昭和初期)  
北海道大学附属図書館北方資料室蔵



高橋丑太郎出征



創業者・高橋喜七と妻サト、そして息子たち  
(後列左から2人目が二郎、右端が丑太郎)



高橋喜七と妻サト、そして娘たち



安足間造材(昭和10年代)

○ 昭和18年(1943年)

昭和木材有限会社設立。初代社長に高橋喜七就任

○ 昭和20年8月15日(1945年)

第二次世界大戦 終戦

○ 昭和22年(1947年)

東京・深川に東京出張所を開設し、本格的に本州売りを目指す



東京出張所(深川)

○ 昭和23年(1948年)

人工乾燥機(KD)工場新設。  
フローリングの生産開始

○ 昭和26年(1951年)

ナラ、ブナのインチ材を英国をはじめとする欧州に輸出開始



二郎(左)とイギリスのバイヤー



吋材(インチ材)積積風景

## 昭和木材有限会社の設立

日本が戦時体制に突入した激動の中で、高橋木材店は法人格の昭和木材有限会社を設立し製材業を開始。初代社長に高橋喜七が就任。資本金13万5千円、従業員16名でのスタートだった。戦後は日本を復興するために北海道の森林に大きな期待が寄せられ、造材が盛んになり山は活況を呈した。会社の近代化を目指す専務 高橋二郎の尽力のもと、同22年には東京出張所を開設。



創業当時の事務所前で(二郎)



昭和初期の造材風景



憲法発布及び加工工場新築記念(昭和21年11月10日)



社員に対する慰労として神楽岡公園の花見は恒例であった



喜七(左)と野崎産業元社長(中央)二郎(右)

○ 昭和28年(1953年)

- ・東京出張所を深川から木場へ移転
- ・カバのインチ材を米国に輸出開始



移転後の東京出張所(木場)

## 国有林からの集荷

昭和29年、北海道を襲った洞爺丸台風により大雪山系麓にある層雲峠の山林がなぎ倒された。北海道の木材業界にとってはこの未曾有の風倒木の処理が急務であった。昭和木材はいち早く本州に満船出荷するなどで処理に貢献し、これを機に国有林との取引が始まり現在も続いている。

前年の昭和28年には東京出張所を深川から木場へ移し、同29年には大阪の小林登商店を特約店に。東京、大阪への販路拡大、欧州視察と、当時の専務である高橋二郎の情熱は並々ならぬものがあった。



初の国有林隨契約材の搬出



創立10周年記念(昭和28年9月27日)

○ 昭和29年(1954年)

- ・風倒木処理のため大量の木材を本州に出荷
- ・高橋二郎専務(当時)が欧州の林業・林産を視察



洞爺丸台風による風倒木被害



北陸銀行北親会(前列左から4人目が喜七)

# 近代化

昭和30年代

## ○ 昭和30年(1955年)

本社事務所(旧事務所)を建設



完成した本社社屋

## 高度経済成長と共に

終戦から10年を経た昭和30年代の日本は、奇跡的な復興を遂げ、高度経済成長への道を駆進していた。昭和木材では合板工場を新設し、ランバーコア合板と一般合板の生産を開始。士別ベニヤ(株)を買収して士別工場とした。こうした中、昭和35年7月、初代社長・高橋喜七が74歳で永眠。2代目社長に高橋丑太郎が就任し、同38年に創立20周年を迎えた。



士別合板工場

## ○ 昭和32年(1957年)

旭川工場に合板工場を新設し、合板の生産を開始

## ○ 昭和35年(1960年)

- ・士別ベニヤ(株)を買収、昭和木材(株)士別工場とする。
- ・7月 高橋喜七死去。  
二代目社長に高橋丑太郎が就任。高橋二郎専務、小山栄常務の体制になる

## ○ 昭和36年(1961年)

- ・資本金3千万円に増資
- ・合板工場JAS認定取得

## ○ 昭和38年(1963年)

- ・流し台受注増加に対応し、木取り部材の生産開始
- ・昭和木材創立20周年

## ○ 昭和39年(1964年)

- ・高橋二郎専務、欧米に40日間滞在し、集成材生産を企画
- ・建設業を開始
- ・フローリング製造にJAS認定



最後の馬車運搬



創立20周年記念(昭和38年9月17日)



二代社長就任時の高橋丑太郎



当時の本社工場



旭川地方輸出木材生産協会 記念植樹



当時の昭和木材全景／2条22～23丁目(左上は北海道立旭川工業高等学校)(昭和30年代)



土別合板工場ドライヤー(昭和30年代)



旭川乾燥・合板工場(昭和30年代)



入荷するナラ材(昭和30年代)



当時の製品(昭和30年代)

○ 昭和41年(1966年)

- ・高橋丑太郎社長、旭川林産協同組合理事長に就任
- ・輸出貢献企業として通産大臣より表彰される
- ・士別合板工場落成



昭和木材 野球部

○ 昭和42年(1967年)

第一回銘木市開催

○ 昭和45年(1970年)

- ・高橋丑太郎、旭川木材協会会長に就任
- ・ZD運動キックオフ



第一回ZD生産運動キックオフ式

○ 昭和47年(1972年)

旭川工場にて集成材の生産と出荷を開始



集成材の生産開始

○ 昭和48年(1973年)

- ・昭和木材株式会社に組織変更

○ 昭和49年(1974年)

高橋丑太郎、北海道木材協会会長に就任

## 「広葉樹の昭和」として

昭和41年高橋丑太郎は旭川林産組合理事長として第1回北海道銘木市を開催。全道や海外から広葉樹原木が旭川に集荷され、旭川は木材・家具の一大銘产地として注目を集め。同時に、銘木市、広葉樹協議会の主幹会社を努める昭和木材は「広葉樹の昭和」としてその名を全国に知らしめた。昭和45年に開始したZD生産運動は、経営のバックボーンであり品質への誇りとして、今も脈々と受け継がれている。



第一回 銘木市 丸太上で競(セリ)を仕切る丑太郎組合理事長(昭和42年)



東旭川製材センター  
後に「ビバエステート」として住宅事業開始の契機となる(昭和47年)



落成時の士別合板工場(昭和41年)



本社社屋(昭和40年)



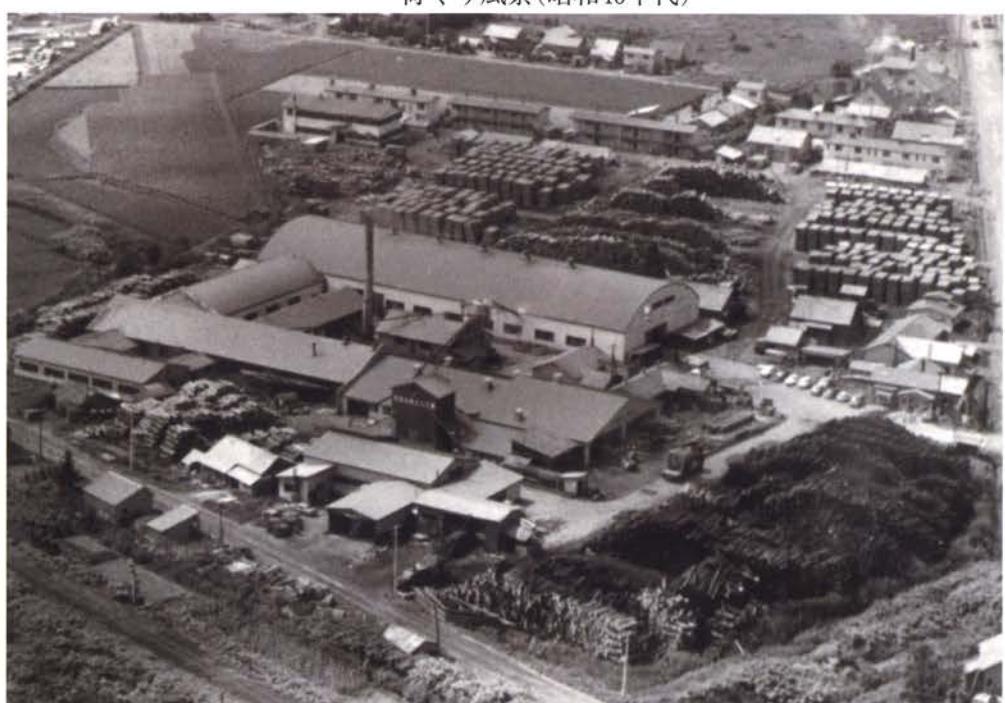
荷ぐり風景(昭和40年代)



社員寮(昭和40年代)



士別工場(昭和40年代)



士別工場航空写真(昭和40年代)

## 集成材生産開始

木材の小さなパーツを貼り合せて厚く大きな盤を造る集成材は正に貴重な木材資源の有効利用であり、乾燥技術と接着技術の成せる業と言える。

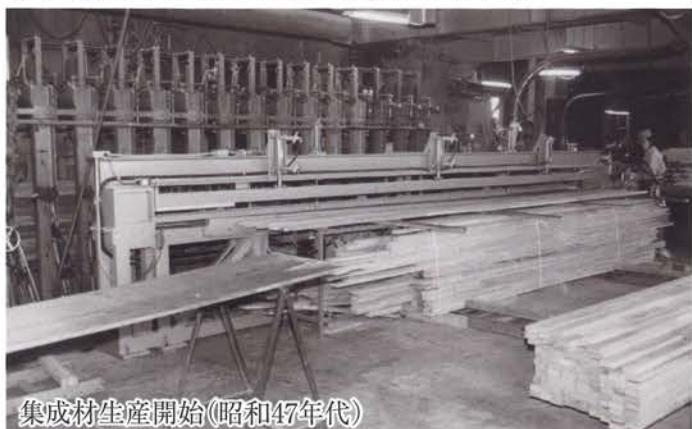
## 昭和集成手摺材



荷ぐり風景／手前は現七田常務(昭和40年代)



集成材生産開始頃のパンフレット(昭和40年代)



集成材生産開始(昭和47年代)



集成材梱包



集成材発送



集成材発送



左から丑太郎、二郎、倉橋恒雄常務(当時)



米国へ合板の販売に訪れた二郎(昭和48年)

○ 昭和50年(1975年)

- ・旭川工場に集成材ミニフィンガー導入
- ・石狩に札幌出張所開設
- ・衛生優良工場として表彰



札幌出張所開設(石狩市)

○ 昭和51年(1976年)

- ・高橋丑太郎社長、中国訪問
- ・高橋サト、急逝
- ・ソ連よりタモ原木初輸入

○ 昭和52年(1977年)

- ・旭川工場加工木材工場に全自動モルダー導入
- ・資本金4千800万円に増資
- ・札幌に製材工場新築
- ・現社長 高橋秀樹入社



札幌製材工場新設(石狩市)

○ 昭和54年(1979年)

- ・中国木材加工技術考察団来社
- ・高橋二郎アラスカ方面出張

○ 昭和56年(1981年)

- ・関連会社(株)昭和設立
- ・高橋丑太郎社長、黄綬褒章

## 広葉樹から針葉樹製材生産へ

昭和50年石狩市に札幌出張所を設置、同53年には札幌工場を新設して海外材針葉樹の製材を開始。これは、北海道の経済圏が札幌中心に拡大することを想定したもので、広葉樹業者が針葉樹に進出と話題になった。この時期から北海道の原木収穫量が減少しはじめたため、いち早く原料を海外にシフト。針葉樹は米国・カナダ、広葉樹は中国・ロシアから原木輸入を開始した。この頃、現社長高橋秀樹が入社し素材部長として海外からの原料調達を担当する。



第二十一回 銘木市(昭和53年)



第二十一回 銘木市会場(昭和53年)



札幌製材工場



高橋丑太郎社長 黄綬褒章賜る(永年の木材業界への貢献により受賞)

## 昭和57年(1982年)

- ・高橋二郎が3代目代表取締役社長に就任、高橋丑太郎は代表取締役会長に

## 昭和58年(1983年)

- ・米国・アラスカ州ヤクタット造材開始

## 昭和59年(1984年)

- ・高橋丑太郎  
「広葉樹に惚れて五十年」発行



昭和59年9月27日に発刊された高橋丑太郎著の「広葉樹に惚れて五十年」

## 近代化。そして世界へ

早くから海外に着目し、昭和木材の近代化を計ってきた高橋二郎が昭和57年、3代目社長に就任。翌年からスタートした米国・アラスカ州ヤクタットからモンタギューに続く造材オペレーションは15年間続き、高橋秀樹が現地に派遣され、札幌工場の原料と商材に貢献した。また、同59年には、高橋丑太郎会長が自伝「広葉樹に惚れて五十年」を発行。丑太郎13歳の決意「僕は何も偉い人になりたいとは思わないが、立木を叩いて一発で良否がわかる本物の材木屋になりたい」との思いそのままに、木と共に歩んだ半生が記されている。

(13) [北海道]

**木材の高度利用を追求**

昭和木材社長 高橋二郎氏

北海道外販売

木材の技術生かし 装飾用部材も多様に

旭川経営支える七人

「旭川経営支える七人」として日本経済新聞に掲載された高橋二郎の記事



三代社長就任時の高橋二郎



東京支店新社屋落成祝賀会

## 昭和63年(1988年)

- ・高橋丑太郎会長、勲五等双光旭日賞
- ・本社社屋新設・創業75周年



高橋丑太郎会長  
勲五等双光旭日賞受賞

「旭川経営 支える七人」として日本経済新聞に掲載された高橋二郎の記事



本社社屋新設と合わせ創業75周年を祝う



「広葉樹に惚れて五十年」の出版記念祝賀会

## 丑太郎と二郎



2代目社長 高橋丑太郎



3代目社長 高橋二郎

### 【高橋丑太郎】木材業界のリーダーとして大きな貢献と多くの栄光

高橋丑太郎は若くして親方となり、山林事業を極めた。その男気と経験は昭和木材の社長となり、旭川林産組合の理事長に就任してからも、いかんなく発揮され、旭川銘木市の開催や全国広葉樹大会への貢献、どんぐり銀行会長として森づくり関わり、叙勲褒章をはじめ、朝日森林文化賞、北海道の最高栄誉である北海道開発功労賞を受賞するなど、数々の栄誉を受けた。

### 【高橋二郎】木材の高度加工を追求し続けて

高橋二郎は昭和18年に旭川の製材工場買収を機に、昭和木材設立時から一貫して木材の高度加工技術を追求し続けた。

粗挽き生製材時代に早くも人工乾燥4面カンナ掛け「Lペーツ」の生産を開始。この時培われた乾燥技術や接着技術が後の集成材技術に活かされ、現在の主力製品である家具や内装材の「木取り材」に発展した。

あくまでも木材の有効利用にこだわり、集成材のみならず、未利用材を中芯に使った「ランバコア合板」の生産にも取り組み、北海道林産試験場と連携しながら技術進歩に尽力した。

北海道林産試験場の研究を高く評価した二郎は、北海道林産技術普及協会の会長に就任し、「木と暮らしの情報館」を建設、北海道の林産技術の進歩に大きく貢献した。

その意志は現社長の高橋秀樹に受け継がれ、平成14年から平成25年まで北海道林産技術普及協会の会長を秀樹が務め、平成25年からは専務の範行に会長職が引き継がれた。

また、海外取引では、昭和47年(1972年)のポンドショックをいち早く予測し、英国向け輸出インチ材決済の危機を回避。さらに当時から米国産スプレス原料の輸入を始め、それが現在の札幌製材工場を計画する契機となっている。東南アジアにも積極的に出向きインドネシアやマレーシア合板の生産も始め、これも現在の主力商品となっている。

一方、業界活動も熱心であり、北海道インチ材組合、旭川木材協会会長、北海道広葉樹協議会会長、北海道林産技術普及協会会长などを歴任し、それらの功績が認められ、北海道知事表彰、北海道産業貢献賞、勲五等瑞宝章を受賞するなど、数々の栄誉を受けた。



高橋二郎 獲五等瑞宝章 受賞記念



高橋二郎(中央)が北海道林産技術普及協会会長時に建設された「木と暮らしの情報館」(平成元年)



朝日森林文化賞受賞式



高橋丑太郎 北海道開発功労賞



高橋丑太郎 朝日森林文化賞受賞天皇皇后両陛下へご進講の栄誉



米アラスカ州ヤクタットでの造材開始。スプルス原木の直輸入が始まる



アラスカからは針葉樹を輸入、米国中西部からも広葉樹の輸入を始めた。これは現在のTracy社との取引につながっている。

○ 平成元年(1989年)

- ・高橋丑太郎会長、北海道開発功労賞
- ・高橋二郎社長、北海道広葉樹協議会会长に就任

○ 平成2年(1990年)

- ・高橋丑太郎会長、北海道中小企業中央会会长に就任
- ・高橋二郎社長、北海道知事表彰、北海道産業貢献賞

○ 平成3年(1991年)

- ・旭川加工木材工場にNCルーター導入
- ・高橋二郎社長、旭川地方木材協議会会长に就任

○ 平成4年(1992年)

高橋範行、東京から本社へ

○ 平成5年(1993年)

- ・創業80年及び創立50周年記念式典挙行

○ 平成6年(1994年)

- ・東京事務所と社宅を新築
- ・高橋二郎社長、勲五等瑞宝章受賞
- ・高橋秀樹、第4代社長に就任、二郎は会長、丑太郎は相談役



東京支店新社屋完成

○ 平成7年(1995年)

- ・高橋丑太郎相談役、朝日森林文化賞を受章
- ・天皇皇后両陛下 紀宮様に拝謁を賜る
- ・代表取締役会長、高橋二郎逝去

○ 平成8年(1996年)

- ・東川町に製材流通センターを開設

○ 平成9年(1997年)

住宅事業を開始

## 昭和から平成へ

平成元年、高橋二郎が会長を務める林産技術普及協会が「木と暮らしの情報館」を建設、様々な林産技術を生かした製品を展示。高橋二郎は木材の技術革新に情熱を持ち北海道立林産試験場を利用し、产学の連携を図った。昭和木材(株)の扱い商品も自社生産品だけでなく、輸入合板などに拡大し、同9年に住宅事業を開始。平成6年に高橋秀樹が第4代社長に就任。翌7年、高橋二郎会長が逝去。



挽立風景



住宅事業を開始。ビバエステート(東旭川下兵村)に「昭和木材の家」モデルハウスをオープン



四代社長就任時の高橋秀樹



どんぐり銀行朝日森林文化賞記念植樹(平成7年)



東川製材センター地鎮祭(平成8年5月14日)

○ 平成10年(1998年)

プロジェクト21始動

○ 平成11年(1999年)

第29回ZD運動社内危機突破大会を札幌で開催

○ 平成12年(2000年)

- ・大阪営業所が大阪支店に
- ・名古屋営業所設置
- ・東川乾燥工場完成



東川乾燥工場落成

○ 平成13年(2001年)

- ・高松営業所開設
- ・高橋秀樹社長、旭川林産協同組合理事長に就任
- ・高橋丑太郎会長逝去

○ 平成14年(2002年)

- ・中国・大連に事務所開設
- ・東北営業所開設
- ・高橋秀樹社長、北海道林産技術普及協会会长に

○ 平成15年(2003年)

- ・東川町に加工工場と倉庫を建設
- ・創業90周年、創立60周年

○ 平成16年(2004年)

仙台支所開設

○ 平成17年(2005年)

札幌支店社屋完成

○ 平成18年(2006年)

- ・札幌プレカット工場完成
- ・グリーン購入法事業者として指定

○ 平成19年(2007年)

- ・札幌に羽柄プレカット工場
- ・高橋秀樹社長、北海道産業貢献賞を受賞

高橋秀樹は社長就任から積極的な生産設備投資と全国の営業店づくりを展開した。

バブル崩壊の余波は、北海道拓殖銀行の破綻という思いもよらぬ事態を招いた。激変する世界経済を鑑みて、昭和木材(株)の方向性も大きく変換。少量・多品種に対応した受注生産、より付加価値を付けた完成品の供給、短納期、邸別配送へと舵を切った。また、中国経済の発展を予測して大連に事務所開設。国内においては同15年に東川町に加工工場と倉庫を新設。札幌プレカット工場も完成した。



東川製材流通センター



東川製材流通センター全景



札幌プレカット工場



全国植樹祭 産業貢献賞受賞



中国国家林業局 江澤慧氏と面談



東川乾燥工場落成



東川乾燥工場落成



社友会10周年記念式典



札幌プレカット工場大倉庫建設



創業90周年・創立60周年記念及び、新加工場落成記念式典



札幌支店新社屋



中国・上海林陽木業有限公司と  
生産委託契約が成立



東京支店スタッフと90周年を祝う

○ 平成20年(2008年)

- ・郡山営業所開設
- ・東川工場内に無垢板工房「和」をオープン
- ・ロシア丸太輸出税100ユーロ

○ 平成21年(2009年)

- ・高橋秀樹社長、北海道集成材工業会会長に就任
- ・無垢板天板を利用した家具製作を開始



家具製作を開始

○ 平成22年(2010年)

- ・ロシア・プラスタンPTS  
ハードウッド社と提携
- ・準不燃木材の認証受ける
- ・旭川新駅舎にタモ材準不燃材  
9万枚納入

○ 平成23年(2011年)

- ・東日本大震災発生
- ・札幌建築フォーラム2011開催
- ・新モデルハウス「和」が豊岡エス  
テートリパークに完成

○ 平成24年(2012年)

- ・旭川新駅舎に使用した準不燃  
技術が、木材加工技術賞受賞。
- ・同技術の開発は北海道立総合  
研究機構森林研究本部林産試  
験場と弊社の共同研究により  
実現した。特に七田常務の尽力  
は多大である



・東北プレカット工場開業  
(秋田県大館市)

○ 平成25年(2013年)

- ・昭和木材(株)創業100周年  
記念式典を挙行

## 木と共に歩んだ百年

大正2年、高橋喜七が高橋造材部を立ち上げてから百年。めまぐるしい時代の変遷の中にあって、我々は常に真摯に「木」と向き合い、「木」と共に生きぬいてきた。地球規模の視点から木材の価値が再び見直されている今こそ、社是である「日々新たなり、技術革新を目指す」を心に刻み、次なる百年に向かって歩み続けていくことを誓いたい。



第363回 北海道産銘木市



日本木材加工技術賞 受賞



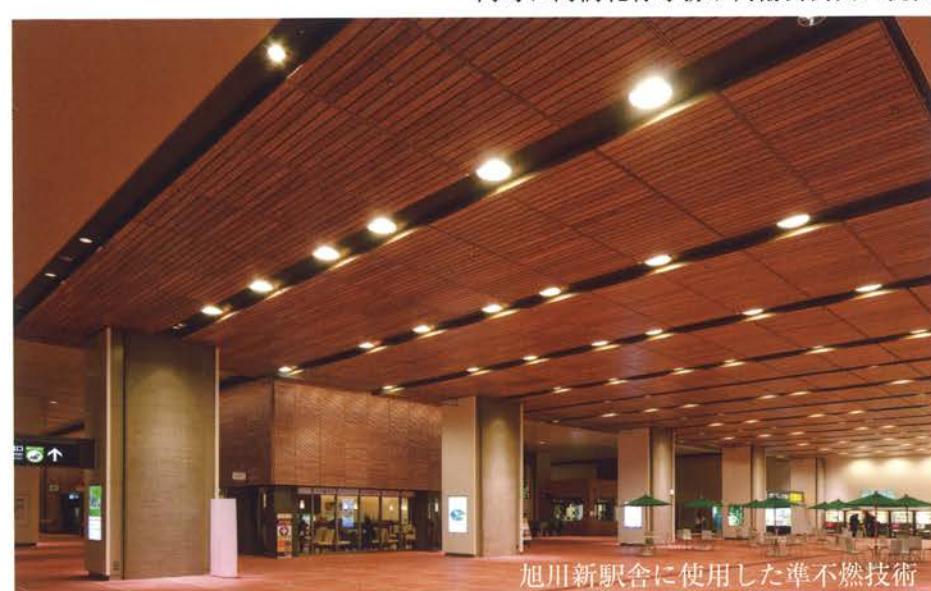
未来の森づくりの為に開催される大植樹祭



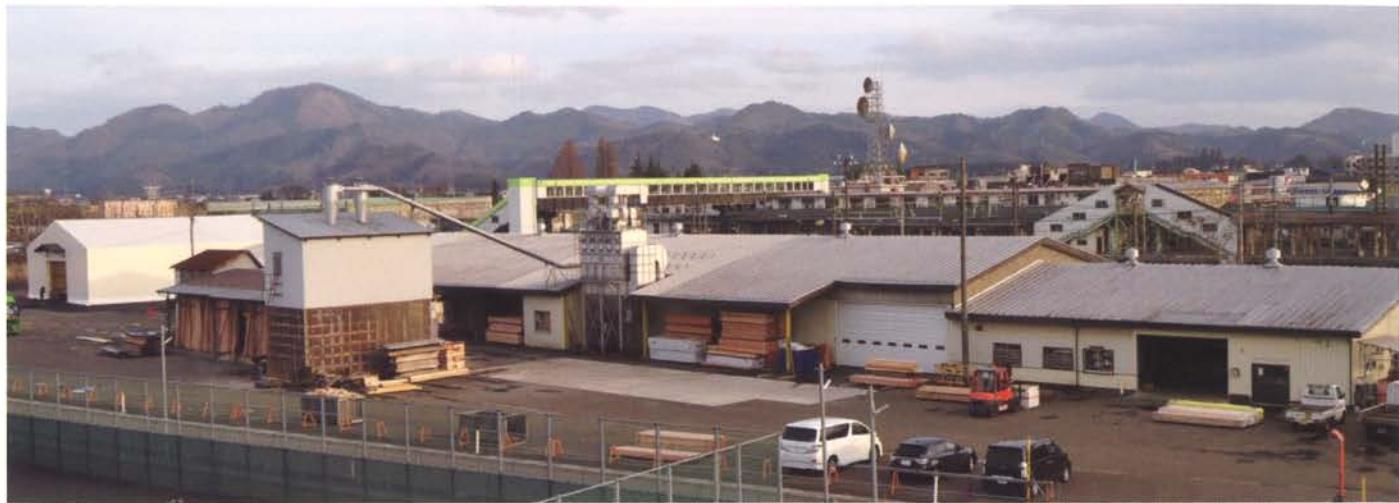
第363回 北海道産銘木市会場



北海道林産技術普及協会60周年記念式典  
にて高橋範行専務から感謝状の贈呈。  
同時に高橋範行専務が同協会会長に就任。



旭川新駅舎に使用した準不燃技術



東北プレカット工場(秋田県大館市)



銘木市に米材出品(20年にわたる取引先、米国Tracy社と)



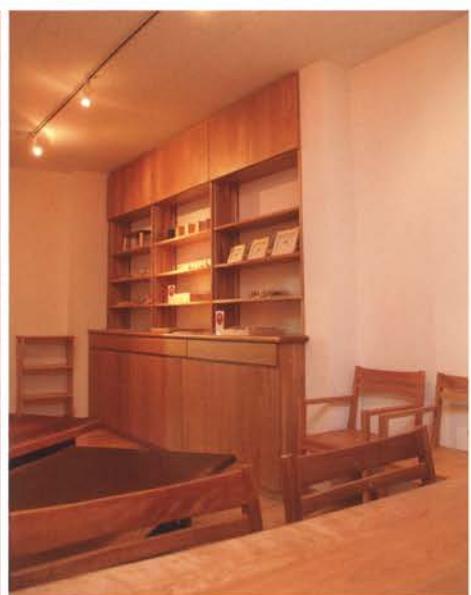
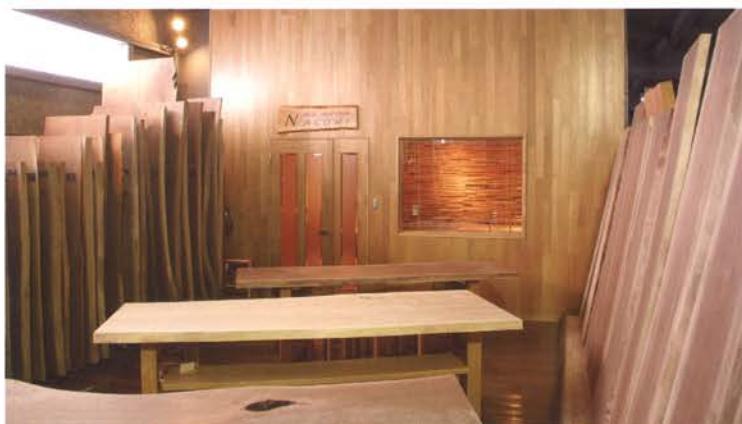
東川新創庫荷繩上屋建設



東川工場ヤード(原木土場)

無垢材家具の生活空間ショールーム

# Nagomi なごみ



# 創業100周年記念祝賀会



# 地球を舞台に

## 木材の可能性を信じて

昭和木材は創業時にドイツにソマ角を輸出するなど、海外との取引、商社との深い関係があった。

この流れは現在も引き継がれ、輸出インチ材、輸出合板の時代が終焉するや、一転輸入に切り替え、木材資源・商品を求めて世界中を飛び回っている。

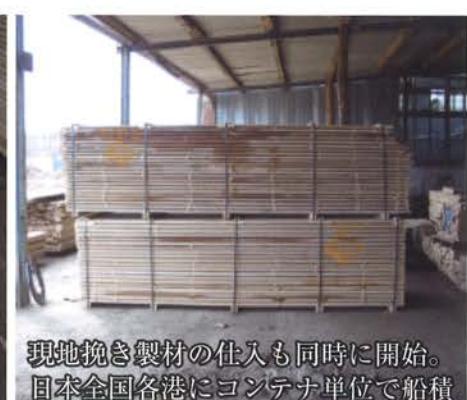
### PTSビジネス

住友商事(株)、ロシア・切尔ネイレスとのJV事業。広葉樹部門のPTS HARDWOOD社と2011年に業務提携。



### ロシアビジネス

ロシア材の原木、製材ビジネスの展開。



## 中国ビジネス

1990年頃より中国産各種木材取引の直接貿易を開始。



中国産ナラ原木



当社によるタモ製材の現地検品



原木厳選の上、フリッヂ生産にも着手

2002年 上海林陽と日本向け独占販売契約締結。



独占販売契約締結

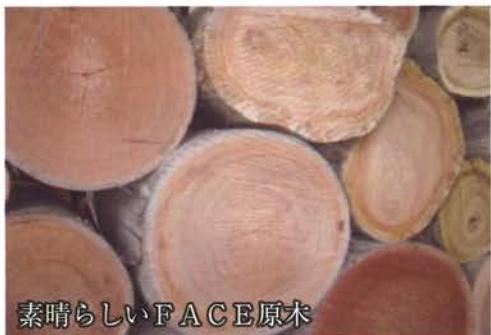
2003年11月、JAS認定工場取得を記念して  
全国の取引先様をご招待しての工場視察

## 東南アジアビジネス

### マレーシア



マレーシア・タワウプライから  
ブロックポート取引開始



素晴らしいFACE原木



検品する当社 東京支店大野部長

### インドネシア



上海林陽インドネシア工場



2012年6月に完成した工場。  
今後、上海での生産設備移転予定



上海向けペアコア生産開始

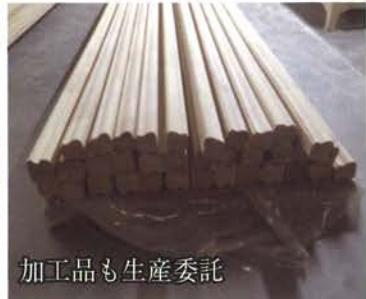
### ベトナム



ペトウッド社



ペトウッド社入団で



加工品も生産委託



安息香芯材を  
検品する越智  
元大阪支店長



ロシア テエルネイレス社シェルバコフ社長と



米Tracy社 スタッフの皆さん



東欧にて



Bwal Auction



ロシアでの検品の様子



ロシアでの検品の様子(玉伐り)



米国Craig Tracy氏



米国White Pigeon ヤード

# 秀樹と範行



## 【高橋秀樹】

高橋秀樹は常務時代、資源不足による国産広葉樹の価格高騰を受け、昭和61年（1986年）に始まったペレストロイカを機に原料基地をソ連に向けた。さらに長期に渡り、自らアラスカからスプルス原木を輸入し札幌工場に供給して来たが、社長就任後、欧州産の製材・集成材・米国産2×4製材に対して競争力が無くなつたと判断し、札幌製材工場をプレカット工場と2×4パネル工場に転換。大きな投資であったが、製造業を貫くという昭和木材の強い意志のあらわれでもあった。このプレカット工場の設立から軌道に乗せるまでの道のりには、技術畠の高橋泰規常務の並々ならぬ努力によるところが大きい。

また、東旭川の製材ヤードは周辺地7haを合わせて土地開発し、宅地分譲をはじめ、長年の夢であった『住宅事業』をスタートさせる。現在、天然無垢材を随所に使った「昭和木材の家」は高く評価されている。

さらに将来へつながる投資として、日本の製造業として海外製品との激しい競争に打ち勝つため、平成24年（2012年）には人口乾燥室を4室増設し、平成25年（2013年）には乾燥（KD）材の保管倉庫、乾燥製材の上屋付荷繰り場を新設する。

平成26年（2014年）の稼働目標に札幌と東北（大館市）の2プレカット工場の増設と機械更新も進めており、あらゆる設計の注文住宅にも少人数、短納期で対応できる高能率工場の設立を進めている。



取締役常務 高橋泰規

## 【高橋範行】

高橋範行専務は、価格競争力のある商材を求め、中国市場経済が始まつてすぐに中国の木製品の直接貿易をスタートさせ、全国にその販売網を築いている。さらにベトナム、インドネシア、マレーシアとアジア全域に足をのばし、現在の昭和木材の海外取引の基盤を作り上げた。

中でも特筆すべきは、36年間続けた土別合板工場閉鎖にともない、2002年に中国の上海林陽と日本向け独占契約締結に成功したことは、昭和木材の発展に大きく寄与した。



本社社屋



役員・幹部



本社総務部



本社営業部



山林素材部



住宅事業部



旭川製材工場



旭川製材工場



旭川製材工場



東川製材流通センター事務所



東川製材流通センター



東川製材流通センター



旭川加工事務所



旭川加工工場製品班



旭川加工工場集成班



旭川加工工場加工班



旭川加工工場木取班



旭川加工工場家具班



旭川加工工場ボイラー・乾燥班



旭川工場



旭川加工工場



札幌支店／営業・総務



札幌支店／CAD部



札幌ランバーセンター



札幌2×4パネル工場



札幌プレカット工場



東北支店



東北プレカット工場



盛岡営業所



仙台営業所



東京支店



名古屋支店



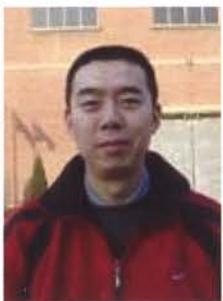
大阪支店



高松営業所



中国事務所



王萌(ワンマン)  
事務所長



韓(ハン)事務所員

事務所長

平成25年(2013年)9月現在 総従業員数 253名

## 編集後記

「木とともに歩んで1世紀」。入社して間もない31年前に最初に作った商品カタログのキャッチコピーを思い出しながら、それが現実となった今、万感の思いでこの日を迎えられ、先代経営者、会社を支えていただいた多くの先輩OB、そして現在苦労を共にしている全社員と創業100周年を迎えた慶びを共に分かち合いたいと思います。

幼少時代より木材の中で育った私は、祖父、伯父、父の背中を常に追いかながら、自然の流れとして家業の木材業に身を置き、はや30年以上も経過しました。「光陰矢のごとし」とは、まさに、この事と実感している次第です。

その間、日本国内の木材製品の需要の変化を敏感にとらえて、その時々に合わせた事業の見直し、再構築をはかりながら、会社の変遷を経験して、今日に至り感慨ひとしおです。

これも、ひとえに昭和木材を長年支えていただいた、全国の有力な取引先の皆様、又その時々に一番旬な木材製品を供給していただいた、世界中の仕入先の皆様のお蔭と厚くお礼を申しあげます。

創業者から数えて、第四世代を迎える、よく言われる「木材屋は、3代と続かない」とのジンクスもどうにかクリアできたことは、次の1世紀に繋がる、総合木材企業としての存続の基盤ができたと思う一方、先代からの社訓「実れば実るほど、頭を下げる稲穂かな」を今後も、胸に刻みながら謙虚に、そして愚直に社業を通して社会貢献することを、常に念頭に入れて社員一丸となり邁進していく所存です。皆様方の昭和木材に対する、これまでと変わらぬご愛顧、ご支援を何卒宜しくお願いいたします。

本100年史は、昭和木材の歴史を語る意味でも重要な社史として、社長を中心に編集をしてまいりました。膨大な資料、写真から抜粋した、この全ての記述画像は、木材史としても大変貴重な資料として、今後次の世紀の木材経営にも大変役立つものと確信しているところです。

最後に、本編集に携わっていただいた(株)ハギヤの萩谷社長、そのスタッフに心より感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。

2013年9月



代表取締役専務 高橋範行